

「書く」活動と言語能力の発達の関係

—三島小の事例を中心に—

話題提供者：小野瀬雅人(鳴門教育大学)

田中智生(岡山大学)

長田友紀(北海道教育大学函館校)

企画代表者：鈴木慶子(長崎大学)

キーワード： 「聞く」 「文字を書く」 「文章を綴る」 発達

1. 企画趣旨

日常の言語活動を観察すると、「話す」「聞く」「読む」「書く」は、それぞれ連続したり並行したりして行われ、単独で行われることは少ない。

このことについて、実験室的環境での調査ではなく、実際の事例に即して検討していく。

なお、本ラウンドテーブルのテーマは、科学研究費補助金(基盤研究B1 研究代表：鈴木、研究分担：小野瀬ほか)研究課題「書字行為と言語能力の発達との関係に関する経年的研究」の一環として行っている事例研究の延長上にある。

当該研究課題については平成17年3月末に中間報告書をまとめた。今回のラウンドテーブルにあたり、同書に収載している事例研究「小学校における聞くことと書くこととの関連性に関する研究—校長先生の話聞くことが、書く力に及ぼす影響を中心に—」(小野瀬、鈴木、久米、原田)について、平成17年3月時点の分析に手を加え提出することとした。話題提供者として、科研メンバーから小野瀬(教育心理学)に、科研メンバー以外から田中、及び長田に立ってもらった。そのほかいろいろな方々からの指摘や助言を仰ぎ、今後の研究へとつなげていきたいと考えている。

2. 三島小の事例について

三島小では、数年来、全学年の児童(約120名)が、月に2～3回の朝礼時に校長先生の話聞き、その話を契機にしてノートに作文するという活動を行っている(現在も別の形で継続している)。

このノートを見ると、実にさまざまな興味深いことが存在していることに気がつく。

当初、話し手の校長は、自分の話がどの程度、児

童に伝わっているのかを確かめるために始めたようであるが、全員のノートを集め、ノートの記述(文字、内容など)について応答をするような書き添えをした後にノートを返却するようになって、そこから次第に、ノートを通した校長と児童の交流が始まったようである。第3者にとってはそのことのほうに重きが置かれていくように感じられた。

校長が「話し」、児童が「聞き」ノートに「書く」。ノートの記述を校長が「読み」「書き添え」、その書き添えを児童が「読む」の循環である。

校長はもともと、この活動を通して言葉の力を育てていこうと、明確に意識していたのではなかったようであった。そうであればこそ、実験室的環境ではなく、日常の言語活動に近い状況での児童の成長を見ていくことになると考えた。

3. 研究の視点について

本事例の検討分析の際には、次頁の図1を参考に進めた。

図1では、「心」が中心に位置し、4技能はそれぞれに「心」に大きく依存していると考えられる。4技能の関係について見ると、言葉の表出機能は、言葉の理解技能に大きく依存しているといえる。

本事例を、図1に照らしてみると、下記のようなだろう。「聞く」と「書く」は直接矢印でつながっておらず、間に「読む」「話す」が介在している。このことは、「聞いて書く」という一連の活動を考えれば理解できる。

まず、耳から入った音声情報は聴覚を通して脳に入る。そして、その情報を脳の中で整理し、自分の言葉に置き換える。この時点で、音声は文字へと変換されていることになる。

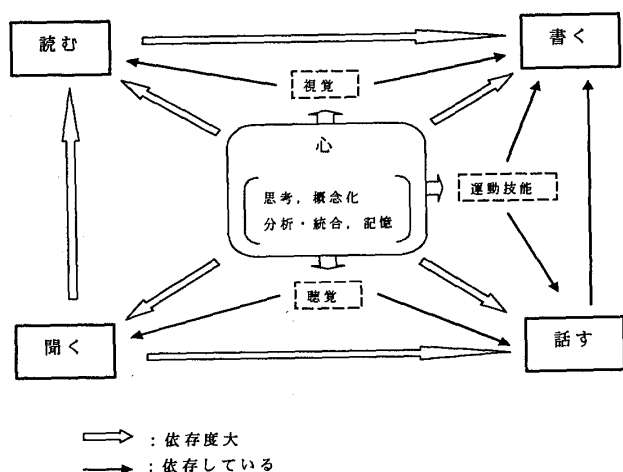


図1 4技能の依存関係
(スタインバーグ, 1982; 山田, 1983)

さらに、本事例の「聞いて書く」という活動は、要点を整理するという処理を経て、「書く」となる。音声を文字へと脳の中で変換させ、要点を整理するということをするとき、児童は脳の中で文字を「読む」ということを行っている。また、それを口に出してみたり、だれかと聞いた内容について言葉を交わしたりすれば、「話す」ということを行っていることになる。このような、認知過程を考慮すると、「聞く」-「書く」の間には、「読む」「話す」が介在していることになる。

したがって、「聞く」-「書く」という活動を見ていく際には、脳の中の情報処理過程を考慮することが必要である。つまり、図1でいう「心」のはたらきの個人差が、最終的には「書く」という活動に至ったときに、どのように影響するのかということなる。

そして、「心」のはたらきの差が「聞いて書く」という活動に与える影響を見るためには、まず、「聞いて書く」という活動について、どのような個人差や学年差があるかを検討分析することが必要不可欠である。

本ラウンドテーブルでは、三島小全児童の平成16年度分ノートを対象にして分析を試みたものを、話題提供者に事前に読んでいただき、話題提供者それぞれの視点から意見を交わし合っていただくこととする。

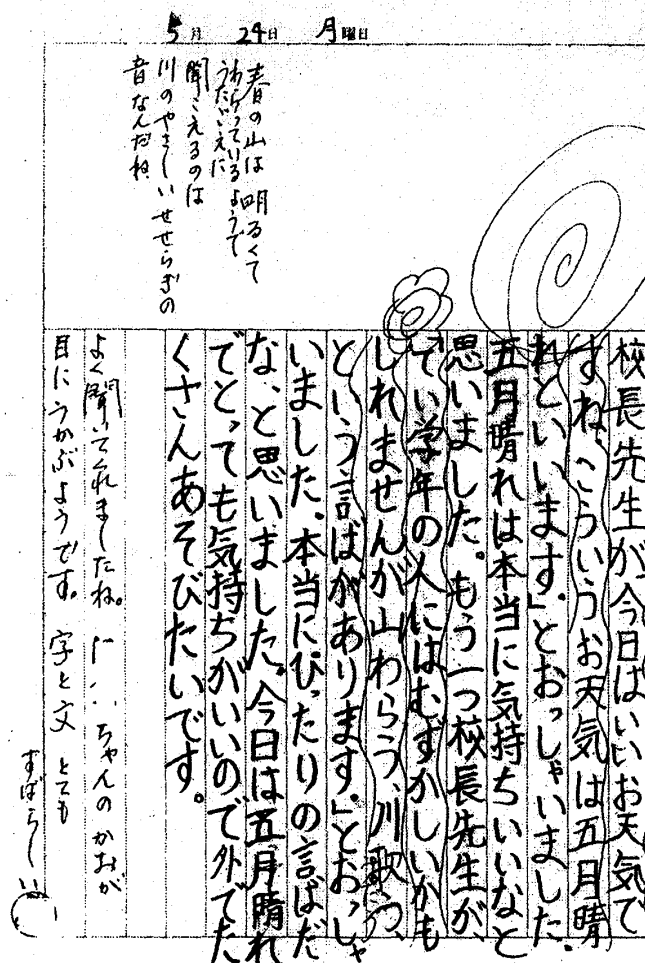


図2 3年生児童のノートの場合
(平成16年5月24日の記述)